

ふれあい

No.11

編集発行 上越市立春日小学校

6年生教室にある卒業までのカウントダウンカレンダーが、20日を切りました。いよいよ今年度も大詰めです。感染症によるお休みは、じわじわと続いています。各学年まとめの教育活動がしっかりと展開されています。1月後半から2月にかけての学校を振り返ります。

○ かすがなかよし大作戦：かけはし班あそび（1月27日）～交流の意義～

子どもたちは、学年ごとのめあて（リーダーシップ、フォロアーシップの発揮等）をもって臨みました。仲間作りゲーム中心の展開に、どの教室にも楽しそうな声が響き、笑顔があふれていました。異学年交流の機会が昨年度よりは増えているとはいえ、まだまだ貴重な機会です。クラスや学年の友達と関わる場面とは、また違う顔を見ることができました。



自分の教室に戻る1年生が「すっごく楽しかったよ！〇〇してもらったよ！」「6年生の班長さんがやさしくしてくれたよ！」と興奮気味に教えてくれたことが印象的でした。

○ 友人関係のトラブル～想いを伝え合うことの難しさ～

仲間との絆を深める場面がある一方で、友達とのトラブルも少なくありません。本人や保護者からの訴え、友人や職員が見かけるなど、顕在化の仕方は様々です。いずれのケースも、当事者や関係者に丁寧に聞き取りをして、一人一人の気持ちに寄り添った支援指導を行っています。

多くのケースから見えてくるのは、トラブルを大きく複雑にしないためには『2つの努力（「自分の想いを伝える努力」「相手の想いを汲み取る努力」）』が大切だということです。これらの力は、一朝一夕に身に付くものではありません。グランドデザインには「自分を見つめる」というキーワードがあります。このことを生活の様々な場面で意識させていくことが肝要だと考えています。

○ 長崎県との交流（2月6日）～学校運営協議会に関連して～

学校運営協議会の先進地域視察として、長崎県教育委員会職員（3名）と文部科学省関係者（1名）が来校されました。春日小側は、3名の協議会委員と校長が対応しました。

当校の学校運営協議会は、11年目を迎えています。「地域と創るカリキュラム」を柱に、「コミュニティスクールである学校とともに子どもを育てる地域」として取組を続けています。その過程では、どんな課題があり、どうやって乗り越えてきたのか等々について、意見交換をしました。

自校の歴史に触れるとともに、遠く長崎県の取組を知ることができ、とてもワクワクした時間となりました。「直接の人々との交流」の大切さを再認識できました。

☆議会で次年度予算が決まりました。様々な環境整備が進んでほしいです。

【校長 星野 浩一】



3年生ひかり学年

みんなおいでよ
春日山！

わたしのおすすめ
春日山！

3年生では、のびやか活動で「春日山」をテーマに地域のよさを発見して楽しむ活動を行ってきました。秋には、自分たちが見つけたおすすめのことを、お互いにガイドしながらめぐり活動を楽しみました。今は、もっとたくさんの人に地域のよさを知ってもらおうと、自分たちでスペシャルひかりツアーを考え、発表会目指して準備中です。

学習活動や行事を通して、一人一人が4年生に向けて頼もしく成長しています。

自分たちがおすすめ
する「春日山スペシャル
ツアー」を考え中。



4年よつば学年 のびやか活動



～発信！ふるさと春日山のステキ～

地域の皆様から、温かいご支援をいただき「松葉かき」「義の土運び」「謙信公祭前夜祭提灯行列」「青苧の紙漉き」に取り組みました。また、義の心の系譜を学んだり、自然を満喫したりしながら「春日山のステキ」を再発見することができました。上越妙高駅での広報活動を通して様々な人と触れ合い、伝え合う楽しさも実感することができました。

目を凝らし、耳を澄
ませた
野鳥の観察！



手作り提灯を手に義の心を誓い合った前夜祭！



青苧の素晴らしさを実感！



協力し合って取り組んだ環境保全活動！